地域で助け合い「恩送り活動」

困っている人と助けたい人 マッチング

稲沢市内の若手経営者らが、生活困窮世帯の困り事を解決する仕組みづくりに挑戦している。その名は「恩送り活動」。市社会福祉協議会の協力を得て、支援が届かないことで悩む市民と、地域貢献をしたい人々をマッチング。「支援を受けた人が元気になったら、いつか別の人を助ける。そんな良い縁をつなぎたい」と意気込む。（寺田結）

稲沢の若手経営者ら 清掃など 支援届かない人に

庭に生い茂った草木を片付ける「恩送り活動」のメンバー＝稲沢市内で

六月末、市内のある一戸建て住宅にメンバー三人が集まった。庭の草木が生い茂り、両隣の家や駐車場、通学路に飛び出して、通行を妨げている。三人は住人と相談した上で、清掃を開始。持ち込んだ機械を使って、一気に片付けた。

この家に住むのは、ひきこもりの男性一人。処理するべきだとは分かっていたが、近所の目が気になって外に出られず、放置せざるを得なかった。しかし、自治体の制度ではこの状況に対処できないのが現状だ。

そこで手を挙げたのが、市内でエステや遺品整理の事業を営む山下雄基さん（三三）＝同市平和町。昨年秋、地域貢献ができないかと市社会福祉協議会に相談し、同会の支援対象だった男性の悩みを聞くことに。「自分たちで助けよう」と経営者仲間らに声を掛けると、すぐに賛同者が集まった。

男性の家の清掃はお試しの二回目で、ほかにも重度の白内障患者や、高齢男性とひきこもりの娘が住む家でも同様の活動を実施。今後は広く仲間を募って団体をつくり、空いている日に自由に参加してもらう仕組みをつくるつもりだ。

市としても、企業などによる支援協力は不可欠になっている。ヤングケアラーや介護と育児のダブルケア、ごみ屋敷、社会的孤立などの生活課題が複雑化する中、かつての支援体制で対応できない例が増加。厚生労働省の呼びかけで、市が昨年度から取り組む「重層的支援体制整備事業」でも、企業や法人、団体などの参加が求められている。

「地元に貢献したい人はたくさんいるのに、良い仕組みがなく、他市のボランティア団体に人が流れていた」という山下さん。「仲間をさらに増やし、皆で助け合えるようになったら良い」と願っている。参加希望者は、市社会福祉協議会＝0587（23）6713＝へ。